



AIは進化するのに、なぜ人間は進化しないのか

■ 前刀 禎明



AIは「ディープラーニング」により、どんどん賢くなります。進化を続け、想像を超える力を発揮し続けています。我々人間はどうでしょう。「AI時代に生き残るため」を掲げ、求められる力、ビジネススキル、教育など、変わらなければいけないということが多く語られています。一方で、「AIに仕事を奪われる」などと騒がれています。これは、本気で変わろうと思ひ、真剣に学ぼうとする人が、まだまだ少ないからです。

世界経済フォーラムなどでも、これから求められるビジネススキルが提示されています。従来最も重要とされていたのは「問題解決力」ですが、いまでは「思考力」や「学習力」の重要度の方が高くなっています。分析的に考えることや能動的に学ぶことの価値は理解されているのです。欠けているのは、それを実践する力です。

「AI」「IOT」「ブロックチェーン」など最先端技術を知ることは大事。しかし、技術トレンドを表面的に追いかけたり、流されたりしているだけでは意味がありません。それが、世の中に何をもちたらし、自分たちのビジネスにどう影響するかを考える必要があります。そして、それを活かして新しい価値を創造することが肝心なのです。「バズワード」を唱えているだけでは何にも変わりません。

時代の変化に合わせて企業がどう動くか、その資質が問われます。多くの企業は、変化に遅れまいと必死に追随しようとします。一部の企業は、変化に柔軟に対応することができます。しかし、本当に優秀な企業は、

■ 前刀 禎明
(株) リアルディア 代表取締役社長

ソニー、ペイン・アンド・カンパニー、ウォルト・ディズニー・ジャパン、AOLを経て、ライブドアを創業。スティーブ・ジョブズ氏に請われ、アップル米国本社副社長 兼 日本法人代表取締役役に就任。日本市場でアップルを復活させた。現在は、セルフ・イノベーション・プログラムや創造的知性を磨く「DEARWONDER」などラーニング・プラットフォームを開発している。



自ら変化を生み出し、時代をリードします。つまり、未来予測ではなく、未来創造です。

GAF A (Google・Apple・Facebook・Amazon)が、典型的な未来創造企業であることは言うまでもありません。「デザイン思考」「システム思考」など、彼らに学ぼうとする日本企業ですが、発想の原点が大きく違い、なかなか追いつけないのが現状。顕在化している表面的なことだけではなく、潜在的なことや本質的なことを見極めなければならないのです。

「私は自分の仕事に満足したことがない。自分の想像力の限界に憤る」。これはウォルト・ディズニーの言葉です。スティーブ・ジョブズが、妥協しないで徹底的に追求していた姿勢に通じるものがあります。あの天才ウォルトが、こんなことを言ったのです。我々は、現状に満足している場合ではありません。もっともっと考えて、学ぶべきなのです。

ディープラーニングで進化するのはAIだけではありません。AIを生み出した人間自身が学び続け、創造的知性を磨いて進化するべきです。昨日の自分より、今日の自分、そして明日の自分。一人ひとりが、多様な可能性を秘めています。「明日の自分には無限の可能性がある」。自分の可能性を信じて、セルフ・イノベーションを続けましょう。